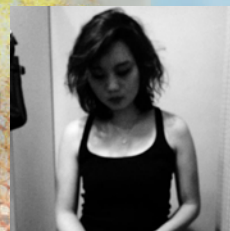


Diverse Culture-scapes

~多国籍社会に向けて~



Khand Lkhagva
建築設計計画研究室



日本では、終戦直後の1947年から49年までに生まれた人の数が多いです。この人たちが日本の経済を支えている時は高度成長期が続き、やがて今はこの時代に生まれた世代の人が高齢になっています。そして、その人たちが大きな負担となり、日本の企業と経済の足を引っ張ることになっています。この状態を40年余り前から、一部の人は予測し、日本式の終身雇用年功賃金体系は改善する必要があると話題になりました。当時の厚生省人口問題研究所（現在の国立社会保障・人口問題研究所）などは、日本は30年ほどの周期で出生数が激増すると考えま

した。70年代に入ると日本の出生数が増え、一時は年間200万人を超えた。しかし今日、40歳で一度も結婚したことない男性が3割近くいる世の中では、出生数を急増させることはとても難しいことです。あらゆる手を打ち、出生数の増加に成功したとしても、これから生まれてくる新生児が、日本の経済を支えられるのは20年以上も先になります。それを考えると外国籍労働者の活用は欠かすことができない要素です。日本に住んでいる外国籍をもつ人数は2016年で238万人となっています。これは、日本の人口の1.8%であり、2014年末時点で、OECD諸国

で中長期に滞在している外国籍を有する人（いわゆる移民）が総人口に占める割合は、全OECD諸国平均で8.1%でした。世界における移民の数は増え続けていて、一般的にはOECD諸国などの先進国を目指す移民が多いです。そのような国際的な標準や、日本の経済規模、そして、急速に進み続ける少子高齢化社会に照らし合わせると、日本における在留外国人割合の1.8%は「驚異的に少ない」と国際的には見られています。日本人に「外国人は地域社会の中で支援を必要としている人」という見方が非常に強く、彼ら自身が社会の中で活躍しているという見方があ

まりないです。その理由の1つが、日本に住む外国人の中には在日韓国人・朝鮮人の割合が高く、その人たちが日本名を使っている、我々がその人たちを日本人だと思っているからです。なので、外国人は支援の受け手というふうにしか考えられてなく、彼らが地域貢献していると一般の人たちに理解されていないです。日頃から外国人と交流ある日本人は外国人に対して非常に高い評価をし、逆に交流がない人ほどネガティブな評価をしている人が多いです。

・東京に暮らす外国人の状態

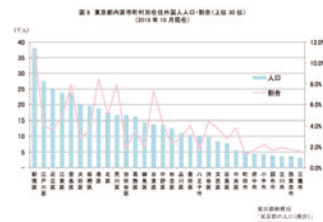
外国人数の推移と割合

都の在住外国人は2015年10月で約44万人であり、東日本大震災以降、一時的に外国人人口は減少したものの、2014年から再び増加に転じている。東京の総人口が20年前と比較して約15%増加しているのに対し、外国人人口は20年前と比較して約70%増加している。



東京都の外国人及び割合

在住外国人数を市区町村別に見てみると、外国人人口の住民に占める割合は、第1位の新宿区では、10%以上を占め、次に港区が約8%で続いている。江戸川区や足立区は外国人の割合が多いものの、区の人口も多いため、住民に占める外国人の割合がそれほど高くない。国籍を見ると、中国、韓国、朝鮮籍の外国人は新宿区が最も多い。



年齢構成

東京の人口は、2014年には60歳以上の人口が25%を超えており、約4人に1人が高齢者である一方で、在住外国人は20代最も多く、次に30代、40代の順になっており、20代、30代で50%を超え、若年層中心の年齢構成となっている。



在留資格から見た東京の特徴

東京は多くの企業や教育機関が立地しているため、在留資格の割合で見ると、全国に比べ技術・人文知識・国際業務など、いわゆる高度人材と留学生の比率が高い。高度人材は2008年以降一層増加しており、また留学生は2011年の東日本大震災後一時的に減少したが、現在再び増加している。全国に占める割合は、高度人材が51%、留学生が35.6%と共に全国1位である。



・新宿区多文化共生実態調査

・しんじゅく多文化共生プラザについて

「はじめて知った」は8割弱
「知っていた」は1割を超える

・多文化共生社会という言葉の認知度

「知っている」は約2割
「聞いたことはある」は約4割
「全く知らない」3割台半ば

・多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと

「日本人と外国人の交流会やイベント」が約4割
「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は3割台半ばを超える
「日本語教室」は2割台半ば
「外国語での生活相談」は2割台半ば

・新宿区への期待

「日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」が6割強
「日本文化と外国文化が融合し、新たな魅力を発信するまち」が3割台半ば
「観光客が多く訪れるにぎわいのあるまち」は2割台半ば

・外国人が新宿区に定住意向

「ずっと住み続けたい」が約4割
「当分の間は住み続けたい」が2割台半ば
「いずれ引越したい」1割に満たない

・日本人とのつき合い

「ある」が4割台半ば近い
「ない」が5割台半ば
「あいさつをする程度」が4割台半ば近い
◇つき合いがない理由では、
「話しかけるきっかけがないから」が5割強で最も高い

・外国人が情報交換などができる仲間やグループ

「ある」が3割台半ば
「ない」が約6割

・外国人が多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと

「地域の日本人との話し合いを行う」と
「気軽に話をする」が3割台半ば
「自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する」が3割近く
「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」



ちびっ子エリア

幼い頃からまわりに海外の人がいて当たり前な場所で育つ。保育所が定休日の時にも、地域の人々に開かれている。



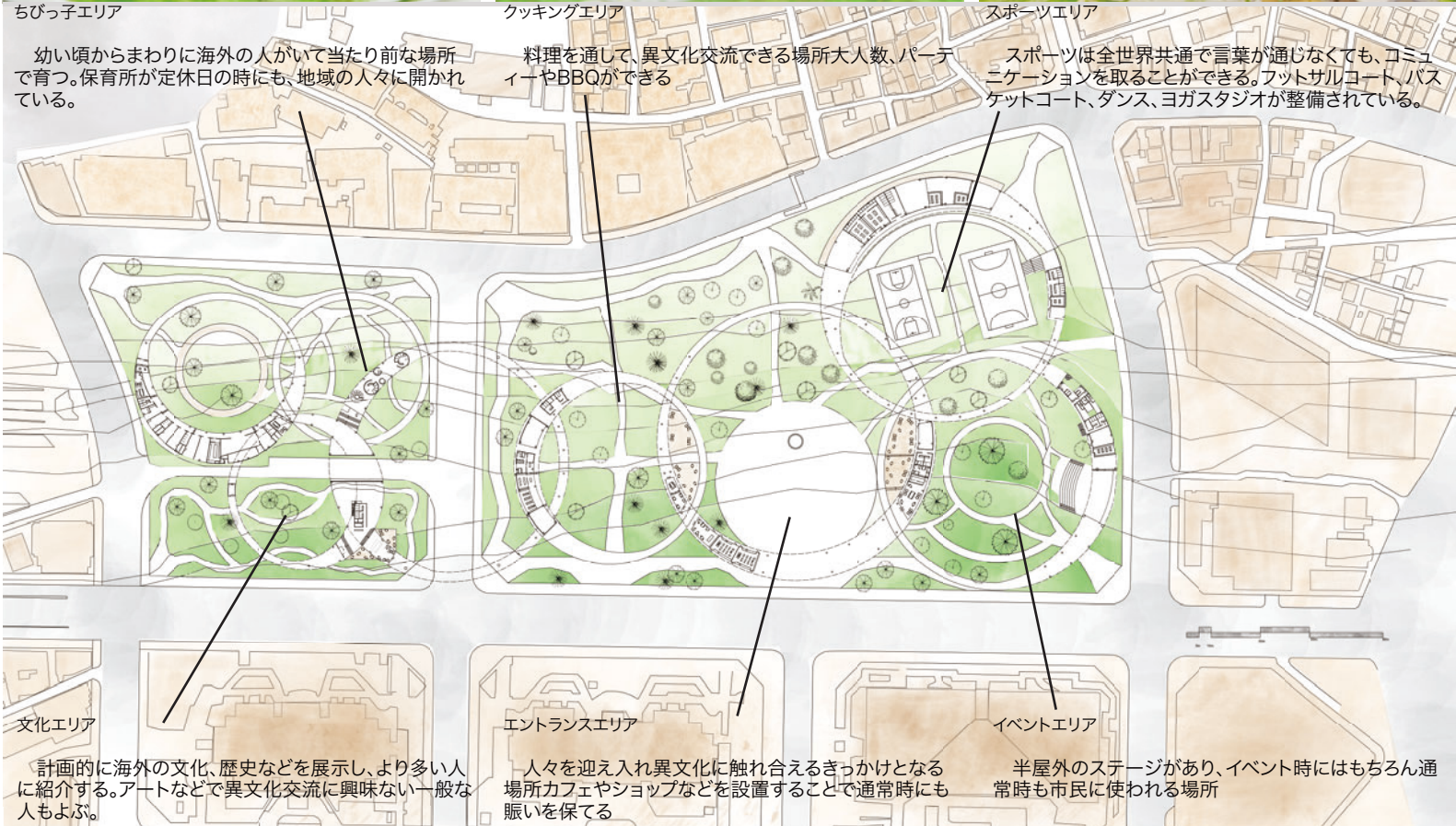
クッキングエリア

料理を通して、異文化交流できる場所大人数、パーティーやBBQができる



スポーツエリア

スポーツは全世界共通で言葉が通じなくても、コミュニケーションを取ることができる。フットサルコート、バスケットコート、ダンス、ヨガスタジオが整備されている。



文化エリア

計画的に海外の文化、歴史などを展示し、より多くの人に紹介する。アートなどで異文化交流に興味ない一般の人もよぶ。

エントランスエリア

人々を迎え入れ異文化に触れ合えるきっかけとなる場所カフェやショップなどを設置することで通常時にも賑いを保てる

イベントエリア

半屋外のステージがあり、イベント時にはもちろん通常時も市民に使われる場所



・設計内容

日頃から外国人と交流のある日本人

外国人に対して非常に高い評価をしている

日頃から外国人と交流がない日本人

ネガティブな評価をしている

この建築は公園でもあり、国際交流センターでもあります。これからは重要なのが、一般の人たちと外国籍の人交流の機会が必要です。

外国籍の人が日本に来て、一番最初の壁が言語です。言語なしの交流できる6つ要素で分けました。

子供たち

文化

食事

イベント

スポーツ

サークル内でそれぞれの活動ができる広場などが設置しています。

